

四日市港ポートビルからみたコンビナート

21世紀の 産業都市モデルを目指して

四日市JCT
(新名神、東名阪、伊勢湾岸)

水沢地区の茶畑

内陸部の半導体工場



特集/産業の活性化

四日市市は、日本屈指の規模を誇る石油化学コンビナートや世界最先端、世界最大級の半導体工場をはじめ、自動車・電機・機械・食品など多様な企業が集積する国内有数の産業都市です。

製造品出荷額等は、全国1,721市区町村の中で11番目(平成24年工業統計)に位置し、本市における税収と雇用の源泉となっています。

昨年、学識経験者や企業経営者からなる「四日市市産業活性化戦略会議」が設置され、今後の産業活性化についてさまざまな議論が交わされました。今年3月には、それらを取りまとめた提言書が、市長に提出されました。

今回の特集では、その提言を踏まえ、四日市市が官民一体となって、21世紀の日本の産業都市モデルを目指していく姿を紹介します。

培われてきた“躍進への力”



恵まれた立地を背景に

四日市市は、日本の真ん中に位置し、道路交通網の充実や、四日市港の存在、さらには中部国際空港へのアクセスの良さなど、産業立地に関して恵まれた環境にあります。

その産業は、明治以降、綿紡績から、羊毛紡績、そして石油精製・石油化学へと展開し、近年は半導体に代表される高度部材供給拠点へと変化を遂げています。まさに四日市市の産業の歩みは、日本の産業展開の縮図といえます。

近い将来、人・モノの流れがより一層活発に

平成30年度開通予定の新名神高速道路(四日市JCT~亀山西JCT)や、平成32年度開通予定の東海環状自動車道(西回り全線開通)など、交通インフラは飛躍的に向上します。

さらに、その先には平成39年のリニア中央新幹線(東京~名古屋)の開通も控えており、人・モノの流れが日本で最も活発な地域になることが期待されています。

環境改善の経験を生かして

昭和30年代から40年代にかけて、石油化学コンビナートが形成され、工場からの排煙や排水による四日市公害が発生しました。

公害の解決に向け、高煙突化や全国初の硫黄酸化物の総量規制など、行政と企業のパートナーシップによる、先駆的な取り組みが進められました。

また、「四日市地域公害防止計画」に基づき、昭和46年度から平成22年度までの8期にわたって、企業による脱硫・脱硝装置などの公害防止機器の開発・導入や、行政による公共下水道や緑地などのインフラ整備が実施されました。総投資額は9,837億円に上ります。

これらの取り組みの結果、昭和51年度には、二酸化硫黄の濃度は市内全域で国の環境基準をクリアするようになりました。

経済活動と環境改善を両立させた四日市市のこうした

モノづくりを支える物流の要 四日市港

四日市港は、原油や天然ガスなどのエネルギーやバルク(バラ積みの貨物)、コンテナを総合的に扱う国際貿易港であり、中部圏の産業を支える物流の要です。

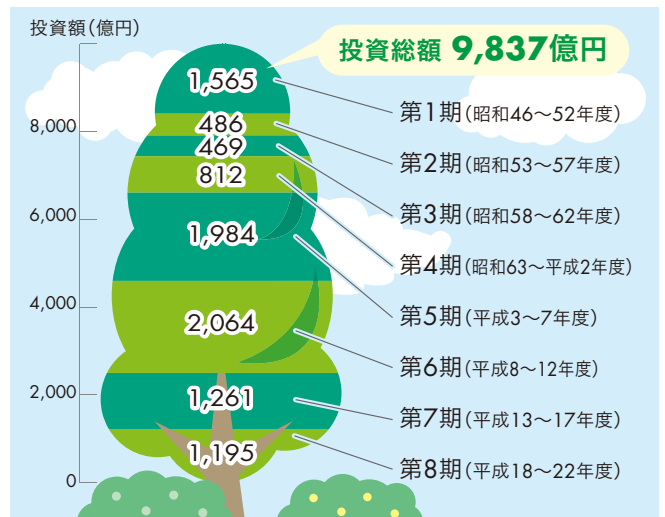
平成29年度には、臨港道路霞4号幹線が完成する予定となっており、今後、名古屋港とともに「国際産業ハブ港」として一層の発展が見込まれます。



建設が進む臨港道路霞4号幹線

取り組みは、貴重なノウハウとして蓄積されており、アジアの新興工業国などに対して国際貢献も果たしています。

■「公害防止計画」に基づく投資額(企業および行政による投資総額)



質の高い居住環境の形成

四日市市は、西に鈴鹿山脈、東に伊勢湾を望む豊かな自然に恵まれており、公害発生を契機に、「住工分離」を目指して、郊外の丘陵部における住宅団地開発が進みました。

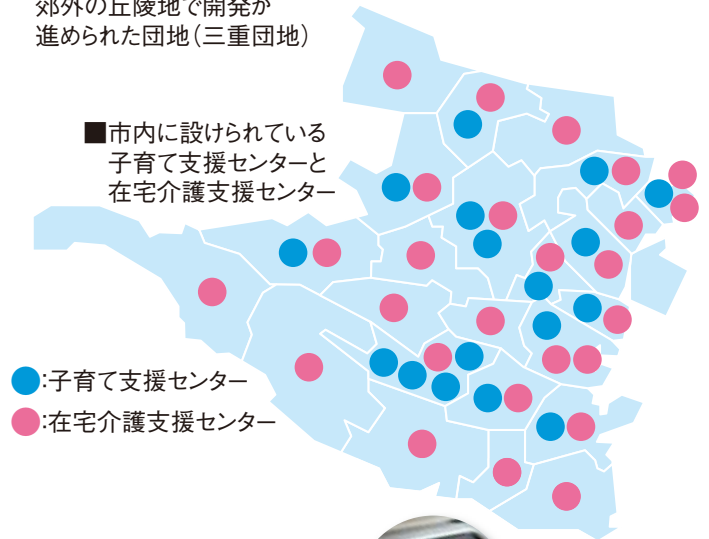
特に、公的セクターが先導して住宅団地開発を行った結果、比較的安価で良質な住宅供給がなされ、高度経済成長期以降、就業人口増加の受け皿となってきました。結果として、市の人口は増加基調で推移してきました。

また、子育て支援や教育、高齢者施策などの各種生活サービスも充実しており、市民が安心して豊かな生活を享受できる環境が整っています。

このような生活の質の高さ(クオリティ・オブ・ライフ)が、四日市市に人材の集積と企業立地を促進し、産業発展を支えてきたといえます。



郊外の丘陵地で開発が進められた団地(三重団地)



時代の変化にも対応

携帯電話端末



産業再生に向けた取り組み

近年、企業の生産拠点の海外移転が進み、産業の空洞化が懸念されるようになりました。

四日市市でも、平成13年に石油化学コンビナートの根幹を成すエチレンプラントが停止するなど、大きな環境変化に直面しました。

こうした状況を受け、企業と市、県が「四日市市臨海部工業地帯再生プログラム検討会」を組織し、産業再生に向けた検討を進めるとともに、平成15年4月には、「技術集積活用型産業再生特区」として、日本で初めてのコンビナート特区の認定を受けました。また、企業立地奨励制度や民間研究所立地奨励金など、さまざまな産業振興施策も打ち出してきました。

これら官民挙げての取り組みが奏功し、製造業では、環境の変化に柔軟に対応し、従来の汎用品から少量・多品種・高付加価値の製品への転換が進みました。

地域全体が高度部材供給拠点に

また、研究開発機能と実証工場も備えたマザー工場(※)化も進みました。石油化学コンビナート地域における機能化学品や内陸部における半導体など、地域全体が日本を代表する高度部材供給拠点となっています。

※マザー工場…研究開発機能や実証工場を兼ね備え、拠点的生産機能を有する各企業の基幹工場

産業を支える優秀な人材育成を

四日市市には、モノづくりを支えるすばらしい技術を有した中小企業も多く存在しています。高い技術力により海外でも成功を収め、その利益を国内に還元している中小企業もあります。

また、今後は、IT分野や都市型産業などでも、多様な新規ビジネスが創造されることが期待されています。こうした状況に対応するためには、産業を支える優秀で多彩な人材の育成が必要であり、ベンチャー支援やシニア世代の知識・経験の有効活用なども重要課題となっています。

四日市市が目指すべき産業都市の姿

～「四日市市産業活性化戦略に関する提言書」より～

日本の産業界をリードする「アジア随一のクオリティ産業都市」

環境共生型 先端工業都市

モノづくりの質的転換と
マザー機能化の
より一層の推進

国際産業 振興都市

今までの経験を生かし
アジア新興工業国の
産業振興への貢献

起業家育成都市

多様な産業創造に
取り組める
人材の集積

産業活性化戦略(今後検討を進め、具体化していく施策例)

<p>臨海部工業地帯等の 再生高度化戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●特区の活用などによる規制改革や、各種申請における審査期間の短縮 ●臨海部工業地帯における未利用地の積極的な活用を促す仕組みづくり (例:企業内工業団地の整備に対する支援) ●海外人材の研修などの支援
<p>中小企業・ ベンチャー企業・ 新産業の競争力強化戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●新たな人材の呼び込み(例:ビジネスコンテストの開催、創業後の出口支援) ●市内在住の企業OBによる地域貢献 (例:企業OBによる技術・経営相談の場の整備) ●中小企業の海外展開への全面支援(例:戦略的姉妹都市提携に向けた検討)
<p>多様な人材を引きつける 魅力ある都市基盤・ 居住環境整備戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●三重県最大の拠点都市の顔となる近鉄四日市駅前広場の整備推進 (例:近鉄四日市駅西口広場の整備計画策定に向けた具体的検討など) ●近鉄四日市駅周辺への高度な都市機能の集積 (例:関東・関西・名古屋圏の企業の支店機能の誘致)

今こそ、四日市市の産業活性化を図る絶好の機会



産業再生に向けた取り組み

- 四日市公害を契機に、環境改善を成し遂げた成果を生かす
- 産業構造の質的転換に成功してきた経験を生かす
- 企業と行政の強い一体感で課題解決に取り組む風土を生かす

さらなる発展に向けて 着眼すべき視点

- 飛躍的に向上していく産業立地環境（高規格道路網の充実、天然ガスパイプラインなどのエネルギーインフラの充実、リニア中央新幹線の開業など）
- 良好な居住環境と生活環境の充実（自然豊かな住宅団地、充実した子育て支援、先駆的な高齢者サービス、防災対策や文化振興など）

産業界を取り巻く状況を 戦略策定の絶好の機会に

- 顕在化する企業遊休地を次なる発展に生かす
- 環境改善の知識・技術をアジア新興工業国などへの技術移転に生かす
- 国による新たな成長戦略において「日本の産業都市のモデル」として位置づけられるよう働きかける

〈四日市市産業活性化戦略会議に参画いただいた皆さんから〉

リニア開通も控え、大きな飛躍のチャンス

委員長



中京大学
理事・総合政策学部教授
奥野 信宏さん

四日市市は、多様な産業が集積するとともに、公害発生後の環境改善により、快適なまちづくりを成し遂げてきました。この経験は、アジアをはじめ世界の中でモデルとなり得るものと考えています。

また、新たな産業の集積も期待される中で、東京～名古屋間、さらに大阪までのリニア中央新幹線開通により、“超巨大都市圏”が形成されることとなります。その中心に中部圏が位置することから、四日市市は、産業面で非常に恵まれた環境にあるといえます。まさに、大きな飛躍のチャンスであり、今回の提言に基づき、自信を持って取り組んでいただくことを期待しています。

委員

高い技術で海外に進出し、国内に利益還元を

日本の製造業の技術力は、アジアの中で突出していますが、数年後には、その差が急速に縮まっていくものと考えます。また、アジアでは、市場が飽和状態になりつつあることから、日本の中小企業が海外展開するのは、この2～3年がラストチャンスと考えます。

海外に進出をすることにより、国内の産業が空洞化するのではないかとありますが、決してそうではありません。高い技術力に基づき海外で展開することは、日本本社の体力を高めることにつながり、国内に利益も還元できます。四日市市内には技術力のある中小企業が多く、工業都市四日市の強みを国内外に示すチャンスです。

株式会社伊藤製作所
代表取締役社長
伊藤 澄夫さん





委員 多様な産業を充実させ、市民にとって魅力的な街に

実績のあるモノづくりに加えて、今後はITや環境など、多様な分野での新産業の進展が大いに期待されます。また、医療・福祉、教育、育児支援、飲食、健康・美容、文化活動支援など、市民の暮らしを豊かにする産業をより充実させていく必要があります。

そのためには、市内外から人材を集められるビジネスコンテストなどの施策を進めることが急務と考えます。特に、学生が課外授業の成果を発表する場を設ければ、関連人材の育成にもつながると思います。そして、市民にとって魅力的な豊かな暮らしのできる街になることが何よりも重要と考えます。

株式会社イブシ・マーケティング
研究所 代表取締役社長
野原 佐和子さん



委員 克服すべき課題に向け、官民一体でロードマップを

日本の製造業の海外生産・売上高比率が急増し、産業の空洞化が避けられない状況にあります。特に、地方の活性化のためには、官民一体の取り組みが喫緊の課題と考えます。

大量生産型の事業から高付加価値化やマザー工場化を目指した、研究開発・製造技術確立の拠点として、立地、環境、人材に恵まれた四日市市は、日本でも稀有な好条件を備えています。

四日市市が、その特性を生かし産業活性化戦略に具体的に着手されたことは、時宜を得たものと考えます。克服すべき課題はありますが、ロードマップを示したうえで、官民一体となって着実に実現に向けた取り組みを進めていただくことを期待しています。

JSR株式会社 特別顧問
吉田 淑則さん



編集後記

今回のテーマである産業活性化の目的は、本市の発展と市民の幸福に他なりません。産業が活性化し、多くの人が集まり、市民の笑顔とともに都市が持続的な発展を遂げていく。そんな未来をイメージしていただき、本市の産業の今後に期待を寄せていただければと思います。(政策推進課 矢澤、工業振興課 山下、広報広聴課 木塚)

泗翠庵

開設20周年
市民茶室

泗翠庵は、鶉の森公園内にある、木造平屋建て、数寄屋造の本格的な茶室です。
茶道をはじめとする日本古来の伝統文化に親しむことができる場の提供と、伝統文化の振興を図ることを目的に、平成6年7月6日に造られました。

訪れてみよう 泗翠庵

Q 誰でも利用できる?

A 予約なしで、どなたでも利用できます

気軽にお菓子とお抹茶で一服できるいす席の茶席「立礼席」があります。時 10時～16時(入席は15時40分まで) 料 400円



「全国小京都和菓子めぐり」

毎月第2日曜日は、全国の小京都と呼ばれるまちから取り寄せた和菓子を30個限定でお出ししています。

Q 20周年ならではの行事は?

A 「20周年記念茶会」を実施します

11月3日(祝) 小間・広間・立礼席の全館を使った薄茶の振る舞い(無料)

12月7日(日) 炭点前(※)を楽しむ集い(有料)

※炭点前=炉の中に炭をつぐ所作のこと

泗翠庵はこんなところです!

伝統文化に親しむ場

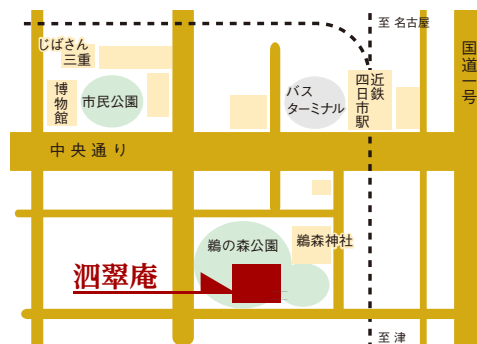
茶道体験教室

茶道教授連盟の協力で、席の入り方、お茶のいただき方などの作法を、お菓子と先生のたてたお茶をいただきながら学びます。



おもてなし

米国ロングビーチ市、中国天津市の姉妹・友好都市などからのお客様をお迎えする、おもてなしの場、迎賓館としても活用されています。



〈交通案内〉

近鉄四日市駅下車 徒歩5分

〈休館日〉

月曜日。ただし、祝日の場合はその翌日。年末年始(12月29日～1月3日)

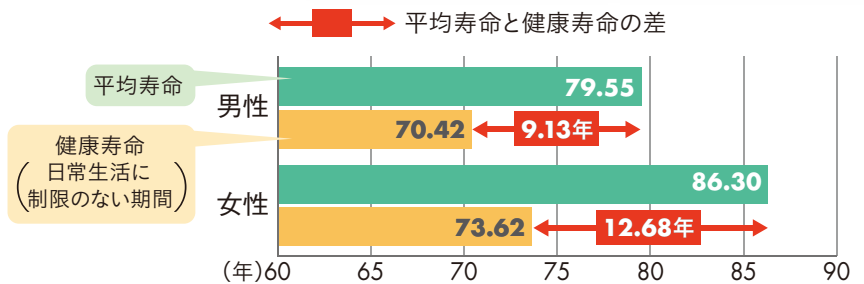
みんなと一緒に楽しいね♪
地域の仲間と目指せ

元気で 長生き!



■平均寿命と健康寿命の差 (出典 厚生労働省「健康日本21(第2次)の推進に関する参考資料」)

右図のように、「平均寿命」と、元気で自立した生活ができる期間「健康寿命」には、大きな差があります。一人ひとりが日ごろから、食事や運動などの生活習慣に気を付けて健康を増進し、健康寿命を延ばしましょう。

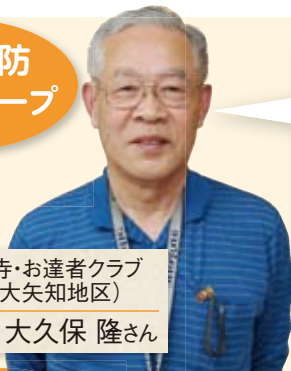


自分のまちを健康に!

市では、一人ひとりの健康づくりを地域で応援する取り組みとして、自主的に介護予防を行えるよう自主グループの育成や健康ボランティアの養成などを行っています。「自分のまちを健康にしたい!」そんな思いの人たちが集まり、集会所や公園で健康づくりの輪を広げています。

皆さんも身近な地域で健康づくりを始めませんか?皆さんに参加いただける場合は、各地区市民センターだより、楠総合支所だよりや市のホームページで紹介しています。

介護予防 自主グループ



松寺・お達者クラブ
(大矢知地区)
代表 大久保 隆さん

市の「地域でお達者クラブ」を利用したのがきっかけとなり、現在は月2回、毎回約20人の参加で開催しています。ラジオ体操やストレッチ体操をするだけでなく、さまざまな健康情報についてお話ししています。このクラブが、町の健康づくりの場や親睦を深める場になればいいと思っています。地元への恩返しのためこれからも頑張っていきます。



松寺・お達者クラブの様子

介護予防 ボランティア



ヘルスリーダー

各地区市民センターなどで、介護予防の体操やレクリエーションなどを開催しています

生活習慣病予防 ボランティア



ステキ健康サポーター

市内12カ所の公園で、生活習慣病予防のための運動をしています

食生活改善 ボランティア



食生活改善推進員(ヘルスマイト)

調理実習を通じて食生活の改善や食育推進活動をしています